

大東市歴史的資源活用基本方針の 概要とまちづくりへの展開について

本日お伝えしたいこと

「日本の最先端」「人の知恵と力」で繁栄を築いた大東市の歴史

「2つの物語」を活用したまちづくりへ

～歴史的資源の魅力を生かしたまちづくりの展開～

大東市の歴史 「2つの物語」

大東の歴史は、「2つの物語」を経て発展してきた

1つ目の物語

知られざる最先端
の繁栄の物語

① 古代

～河内南部の王権及び北河内の渡来人と強い関係を伺わせる先端地域～

② 中世

～人やものが行き交い、京都文化やキリシタン習俗が流れ込んだ先端地域～

2つ目の物語

人の知恵と力で豊かさ
を发展させた物語

③ 近世

～新田開発により人の知恵と力で「商都・大坂」を支える豊かな農村を发展させた時代～

通期

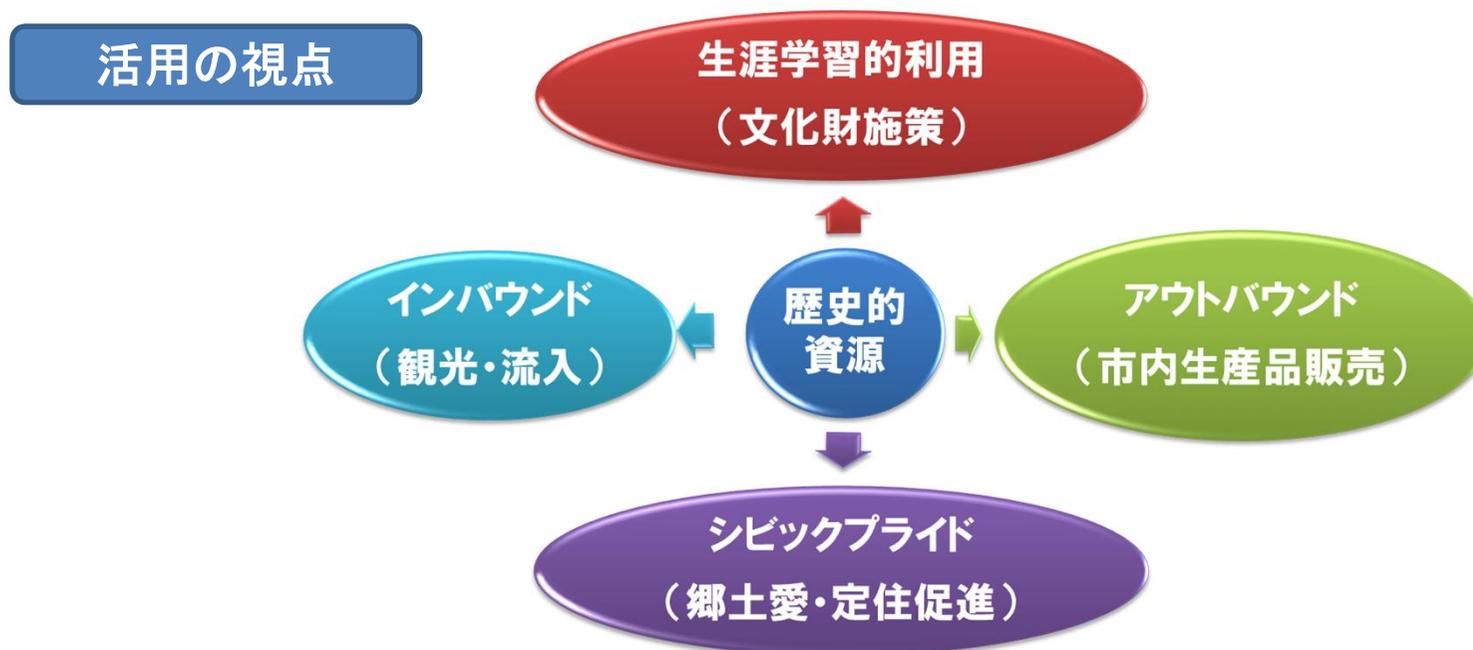
～観光資源として既に確立した歴史ある野崎観音～

2つの
物語

策定に当たっての基本的な考え方

「歴史的資源の利用」は、市民の文化レベルの向上に資する利用が基本であるが、当該方針では、観光資源やシビックプライドの資源としての活用も考えられる歴史的資源を絞り込むため、次の3点の視点から、整理を行う。

- ①インバウンド（観光・交流の活性化）
- ②アウトバウンド（市内生産品に付加して販売に寄与）
- ③シビックプライド（郷土愛の醸成、定住を促進）



策定手順

整理

- 本市の歴史的資源を、時代／地域／カテゴリー／内容／特長などにより整理

物語化

- 整理した歴史的資源をつなぎあわせ、その価値を高められるような物語を構築

活用検討

- 構築した物語を活かした上で、①インバウンド(観光・交流)②アウトバウンド(市内生産品販売)③シビックプライド(郷土愛・定住促進)の視点から、個別の資源よりも高い魅力付けを図り、本市の魅力発信ならびにまちづくりの土台として活用するための方向性を検討

整理することで見えてきた「2つの物語」

1つ目の物語

知られざる最先端の繁栄の物語

① 古代

～河内南部の王権及び北河内の渡来人と強い関係を伺わせる先端地域～

② 中世

～人やものが行き交い、京都文化やキリシタン習俗が流れ込んだ先端地域～

① 古代

～河内南部の王権および北河内の渡来人との強い関係をうかがわせる先端地域だった時代～

【堂山1号墳】

◆造成年代／場所／
豊富な埋納物・・・

被葬者は河内王権や

馬飼野などにつながる渡来人との関係も
深い、王朝の渡来人コーディネーター的な
人物だったのではないか。

⇒5世紀前半の大東市域は、有力豪族
と渡来人が活躍する最先端地域？！



堂山1号墳



甲冑 三角板革綴衝角付冑、三角板革綴短甲
(大阪府指定文化財)



部屋北遺跡・馬埋納土坑遺骨 (レプリカ)
四條畷市

②中世

～人やものが行き交い、京都文化やキリシタン習俗が流れ込んだ先端地域だった時代～

【飯盛城】

- ◆飯盛城：織田信長に先んじて畿内を制覇した三好長慶が、天下の政治を司った天下城。中世最大級の規模で、戦国時代の山城として第一級の遺跡。
- ◆飯盛と北河内は、大和川を通じ堺へ、さらに海外へとつながる当時の最先端地域。



飯盛山 遠望

②中世(その2)

【三好長慶】

- ◆足利将軍を追放して首都京都を制圧した。堺を基盤に近畿・四国で勢力を伸ばした長慶の統治政策は、織田信長の先駆けとされる。連歌に優れ、文化人としての逸話も多い。
- ◆西暦1560年(永禄3年)に飯盛城を居城とし、1564年7月に43歳で死去するまでの間、ここを拠点として天下の政治を司った。

⇒「織豊時代を先取りして繁栄した戦国時代の最先端地域、飯盛北河内」の物語へ



三好長慶像(堺・南宗寺)

2つ目の物語

人の知恵と力で豊かさを発展させた物語

③近世

～新田開発により人の知恵と力で「商都・大坂」を支える豊かな農村を発展させた時代～

③ 近世以降

～新田開発により人の知恵と力で「商都・大坂」を支える豊かな農村を発展させた時代～

【素敵な田舎】

- ◆豊かな暮らしへの祈り(だんじり)
- ◆賑わう往来の記憶(野崎まいり)
- ◆豊かな集落の風景(水郷・新田開発の遺構)



取り壊し前の平野屋新田会所（長屋門）



御領水路と田舟



野崎まいり（河内名所図会）



だんじりまつり

⇒大東市は「北新地から17分で着く素敵な田舎。こころ休まる故郷の風景。」という価値へ

2つの物語に欠かせない 「水」と生きてきた大東市域

～「水」の規定する地勢によりこの物語が生まれた～

古代 ～広いエリアが水域
(河内湾・河内湖)だった時代～



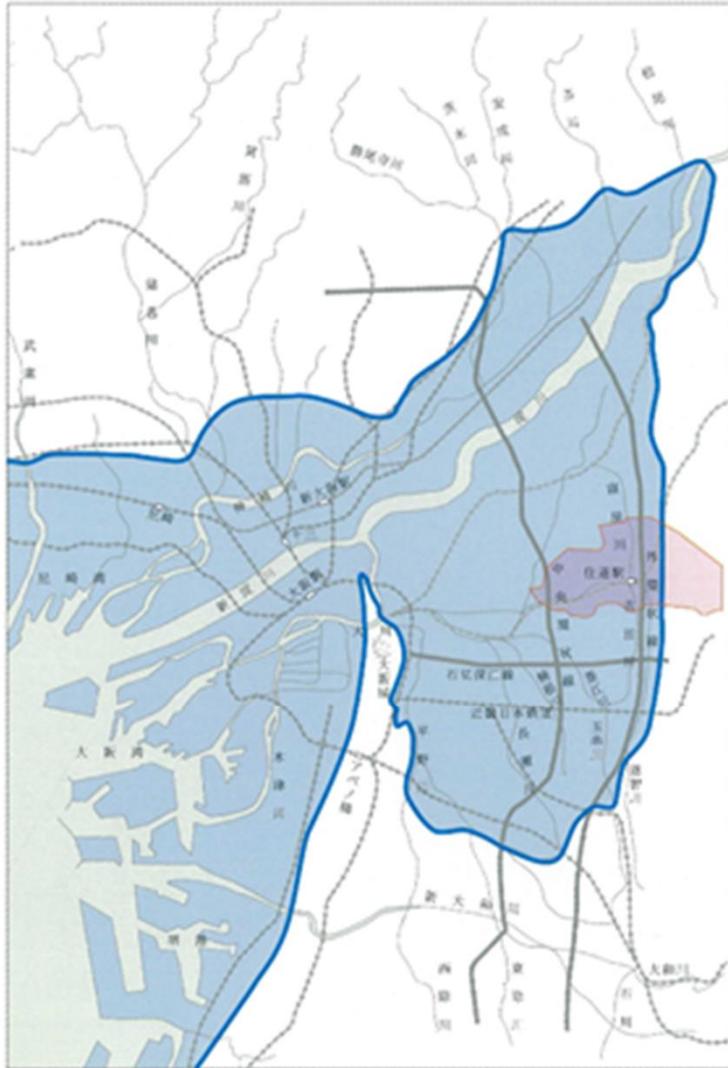
中世 ～大きな池や湿地が広く
残っていた時代～



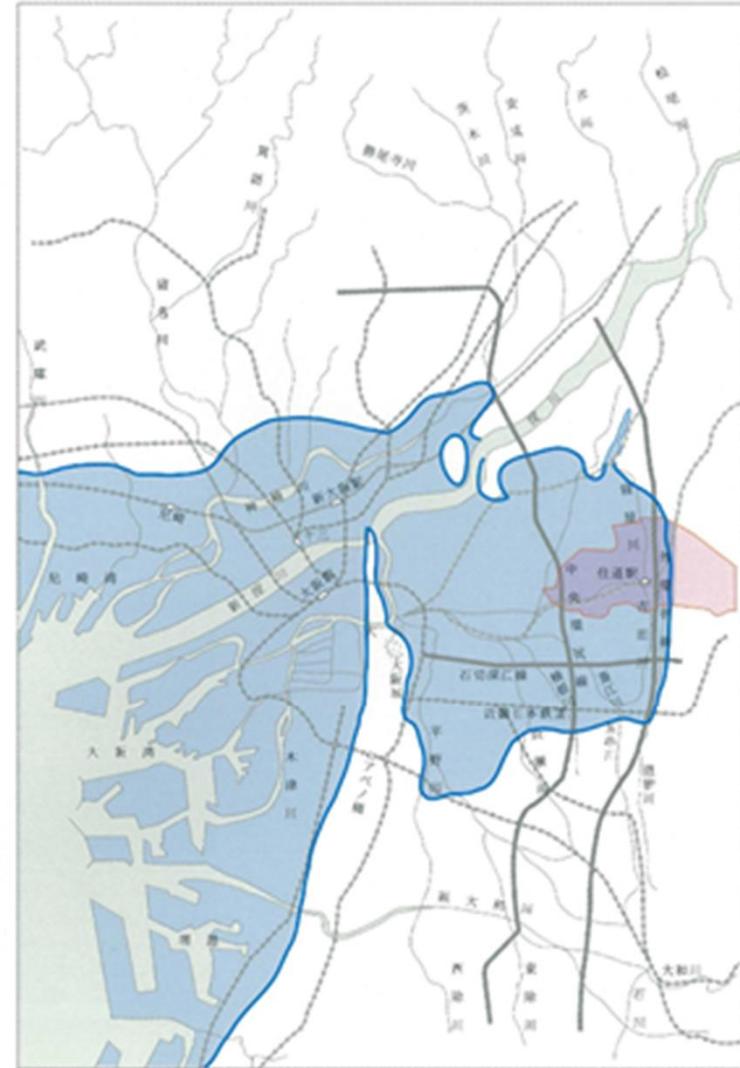
近世以降 ～新田開発を経て
豊かな農村として発展した時代～

参考：古代期における水域の変遷1

河内湾Ⅰの時代（約7000～6000年前）



河内湾Ⅱの時代（約5000～4000年前）



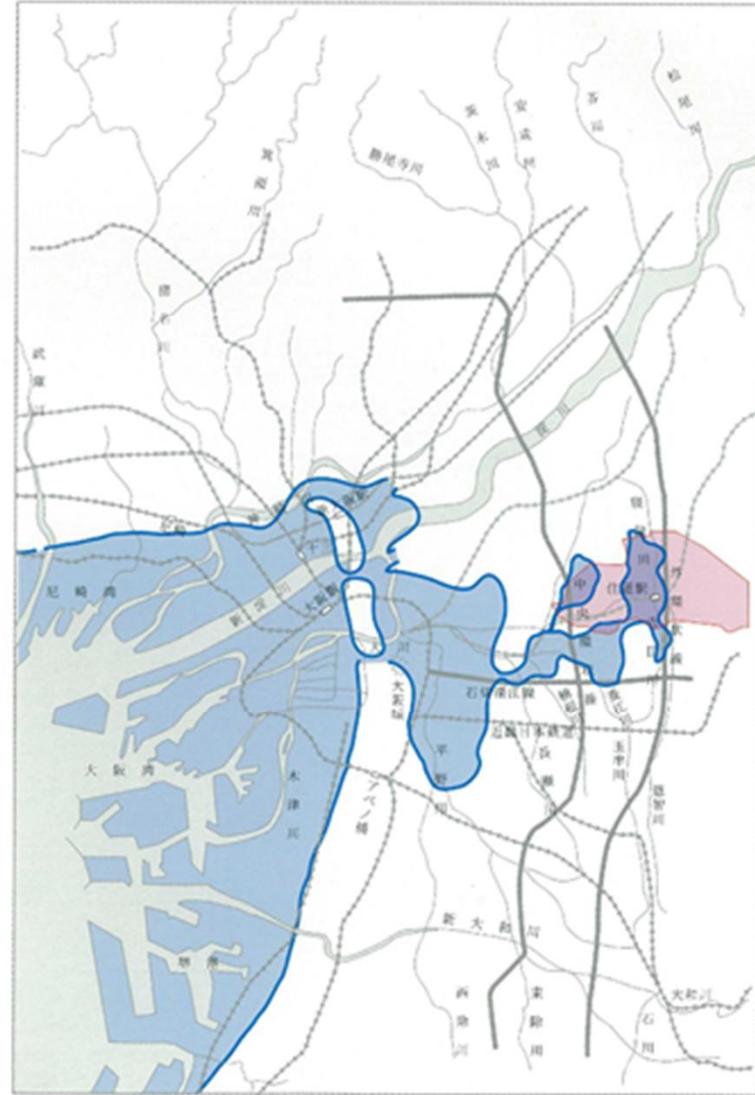
出典：だいたう学テキスト「大東市域の河川と水の利用」

参考：古代期における水域の変遷2

河内潟の時代（約1800～1600年前）



河内湖の時代（5世紀頃）



出典：だいたう学テキスト「大東市域の河川と水の利用」

2つの物語を見つめ続けてきた野崎観音

～観光資源として既に確立した歴史ある野崎観音～

【福聚山慈眼寺】

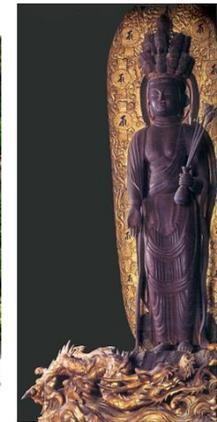
◆奈良時代からの長い歴史を持ち、現在も単独で高い集客力を有する。

◆野崎まいりは現代の楽しみやレジャーの提供で集客を得る側面が強い。

⇒野崎観音の歴史と大東市域の他の歴史を関係づけて、大東市への誇りや関心の喚起を図る



福聚山慈眼寺 本堂



慈眼寺本尊十一面観音（秘仏）



野崎まいり：参道のにぎわい 露店



江口の君

今後に向けた意気込み

大東市歴史的資源活用基本方針

大東市まち・ひと・しごと
創生総合戦略

大東の
歴史

&

市民の
関心・参画

未来に向けた
「大東価値」

知られざる最先端
の繁栄の物語

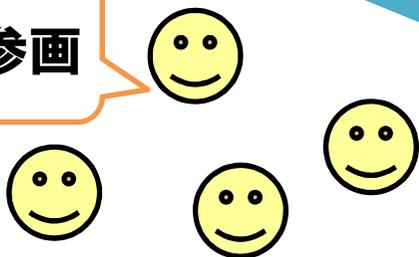
2つの
物語

人の知恵と力で豊か
さを発展させた物語

関与



参画



シビックプライド

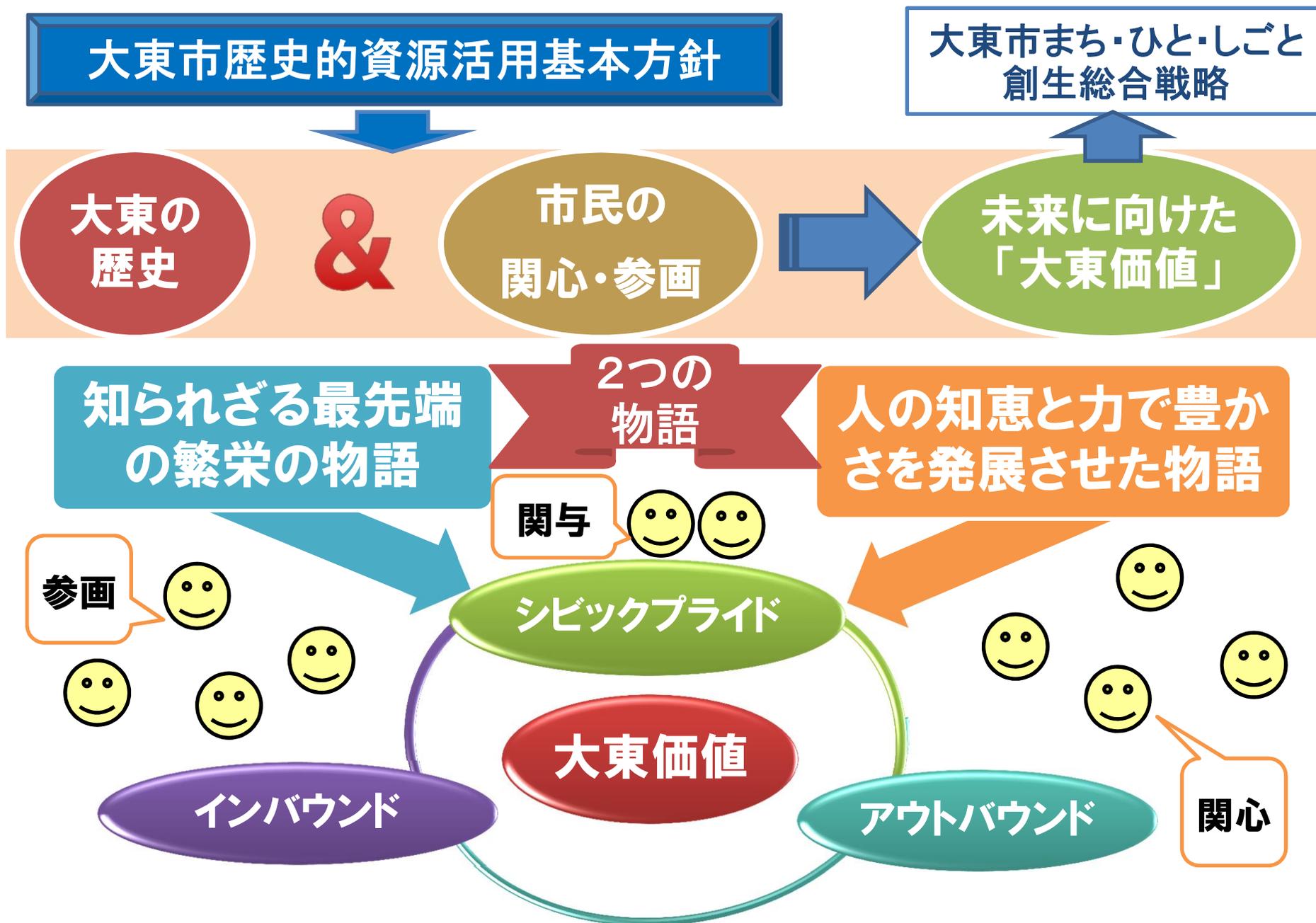
大東価値

アウトバウンド

関心



インバウンド



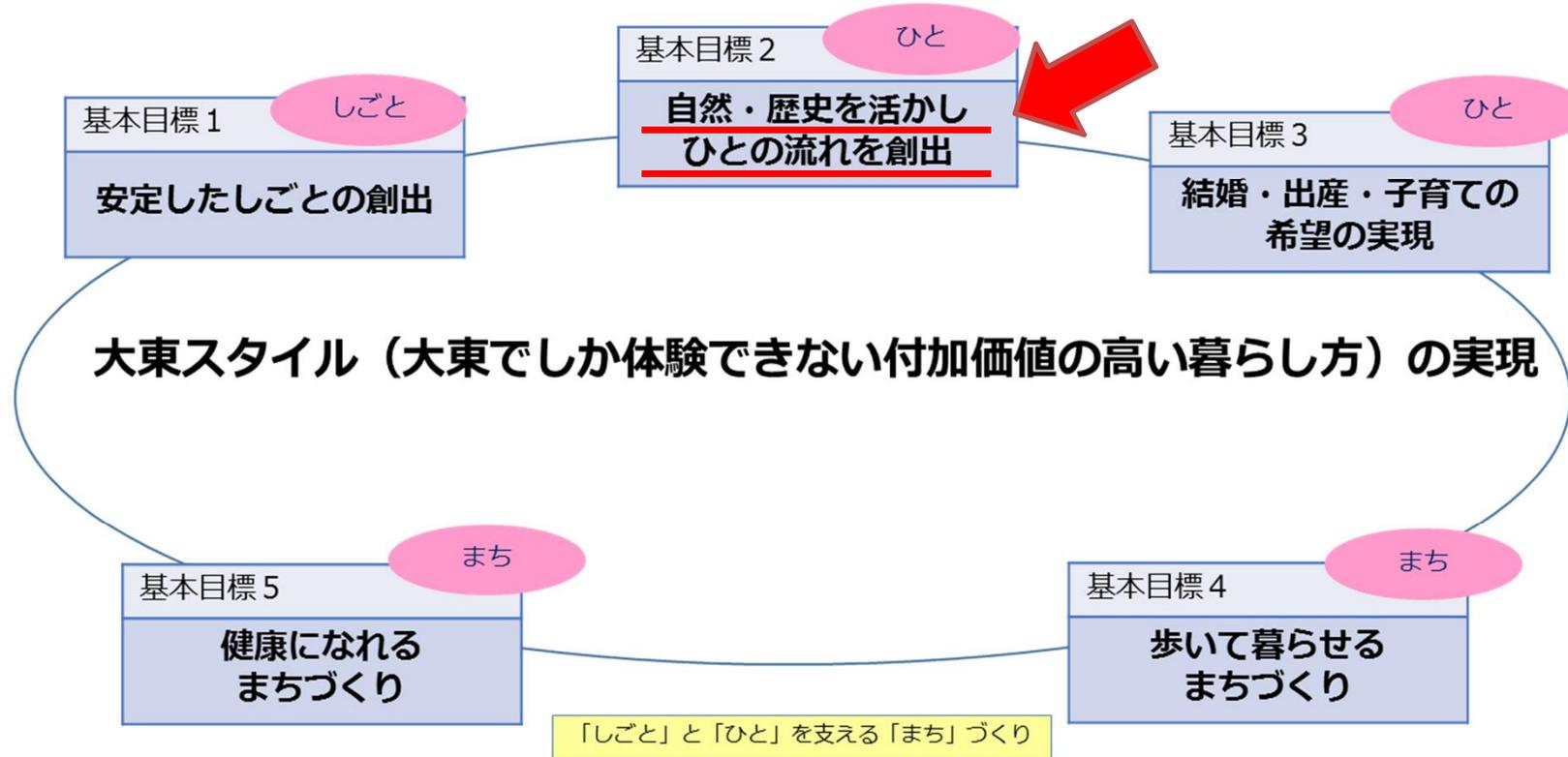
大東市まち・ひと・しごとと創生総合戦略 での位置付け

2020年の人口目標
13万人
(転入超過数 約1,000人/年)

< 5つの基本目標 >

「しごと」と「ひと」の好循環づくり

「しごと」があれば、「ひと」が集まる。「ひと」が集まれば、「しごと」が生まれる。
「しごと」と「ひと」の好循環をつくることで、まちの活性化を図る。



「ひと」が健康になれることを「しごと」と「まち」づくりに活かしていく。

「まち」が便利で暮らしやすければ、「しごと」と「ひと」はより一層元気になる。

今後のまちづくりへの展開

- ◆ 2つの物語の周知
- ◆ 「飯盛城と三好長慶」を
キーコンテンツに

教育委員会における 文化財施策の展開

1. 大東市の歴史的資源



福聚山慈眼寺 本堂



だんじり祭り風景



堂山1号墳

四條畷古戦場(大東市北条2丁目(旧古戦田)付近)



飯盛山 楠木正行像



飯盛城 石垣



「大東八景・絵日傘の舞」
に描かれる野崎観音と
お染久松

河内クリスタンの世界 概念図



御領水路と田舟

2. 基本方針に基づく取り組み①

【飯盛城跡の国史跡指定 & 整備】

◆5年後の指定を目指して
専門委員会を設置

⇒平成28年度から実施

- ・レーザー測量
- ・発掘調査
- ・文献調査

⇒指定後の整備の検討

- ・ハイキング道、遊歩道
- ・説明板、展望台
- ・青少年野外活動センター

ガイドンス施設併設、駐車場整備

◆飯盛城関連資源(野崎城・三箇城・河内キリシタン)も調査研究を進める



三好長慶像 (堺・南宗寺)



飯盛城 復元想像模型



飯盛城
石垣

野崎城跡



三箇城跡碑



2. 基本方針に基づく取り組み②

【平野屋新田会所跡の整備・活用】

◆所有者の事情により、坐摩神社以外の建物は取り壊されてしまった。

⇒現存する建物基礎部分と船着場などの会所跡を、周辺の水路や樋門と共に「現在の
大東市が形成された当時の原風景」として保存・整備



取り壊し前の平野屋新田会所（長屋門）



土蔵/米蔵（昭和30年頃）



主屋棟/座敷棟



船着き場跡



発掘調査風景

2. 基本方針に基づく取り組み③

【だんじりの学術的見地からの研究】

◆大東のだんじりは「集落民と氏神が共に豊作を喜ぶ神事」としての性格が強く、「北河内型」と呼ばれる大型のものが大多数。

◆現在も32台のだんじりが曳航

⇒伝統文化の周知および学術的な見地からの研究を通じ、都市魅力観光課と連携しながら、市民の郷土への誇りと愛着を高め、市民の熱意をサポートし、街の活性化を図る

大東市のだんじり祭り風景



2. 基本方針に基づく取り組み④

【市民の主体的な活動に対する支援】

◆飯盛城に関するシンポジウムや講座を積極的に開催する団体等の活動

◆市民学芸員活動

◆平野屋新田会所市民サポーター活動

◆観光ボランティアガイド活動 ...など

⇒提案公募型委託事業での採択、文化財に関する講座開催や情報提供、パンフレットの作成や監修などにより、市民の主体的な活動を支援

2. 基本方針に基づく取り組み⑤

「飯盛城」を最重要ターゲット
に定め、
基本方針に沿った活用
を着実に進める

歴史的資源を活用した今後の 取り組み予定について

1. 今後の主な取り組み②

【野崎まいりクルージング & ウォーキングツアー2016】

◆平成28年5月 【市主催】

◆現代のレジャーとしての野崎まいりだけでなく、野崎まいりに関する歴史を知り、船と徒歩で行く野崎まいりを体験してもらうことで、大東市への関心に結び付け、大東市にまた「行きたい」と思っていただけのような促す。

現代に復活した野崎まいりクルージング（平成27年度）



1. 今後の主な取り組み③

【東高野街道フェスタ2015】

- ◆大東市提案公募型委託事業【民間連携】
- ◆大東市観光ボランティアガイド「やまびこ」主催
- ◆テーマ：飯盛城主「三好長慶の秘密を探れ！」
- ◆平成27年11月14日(土)・15(日)
- ◆(1日目)飯盛山を登る「クイズスタンプラリー」
(2日目)三好長慶にちなんだイベント
野点／鎧・兜で記念撮影／紙芝居など

1. 今後の主な取り組み④

【関西城郭サミット2015 in 飯盛城】

- ◆大東市提案公募型委託事業【民間連携】
- ◆NPO法人 摂河泉地域文化研究所 主催
- ◆テーマ：「飯盛城跡と平地城館」
- ◆平成27年11月22日（日） 四條畷学園短期大学
- ◆大阪市立大学・仁木宏教授による記念講演 等

☆平成28年2月28日（日）には落語家・春風亭昇太さんを招いて「落語とお城トーク」を開催予定。

2. 実施検討している主な取り組み①

【三好長慶 武者行列イベント】

- ◆平成28年 春(予定)
- ◆戦国時代、飯盛城下であった北条地域で、武者行列イベントを実施
- ◆地元で活動するNPO、観光ボランティア団体との連携予定

※詳細は今後調整していく予定

2. 実施検討している主な取り組み②

【文化庁「日本遺産」への認定を目指して】

◆3つの方向性

- (1) 地域に点在する文化財の把握とストーリーによる
パッケージ化
- (2) 地域全体としての一体的な整備・活用
- (3) 国内外への積極的かつ戦略的・効果的な発信

◆大東市歴史的資源活用基本方針でまとめた大東市の歴史における「2つの物語」をもとに、「日本遺産」への認定申請を視野に入れた取り組みを検討